

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和4年12月23日（金）
午前9時25分 開会
午前10時46分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 竹中 理
副委員長 小森 弘詞
委員 岡本 昭治、清水 寛、
須山 泰一、田原 宏二、
前田 敦司、義本 みどり
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本 英津子
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 竹中 理

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2022年12月23日(金) 9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項の現況について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

4 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2022年12月23日現在

職 名	氏 名
委員長	竹 中 理
副委員長	小 森 弘 詞
委 員	岡 本 昭 治
委 員	清 水 寛
委 員	須 山 泰 一
委 員	田 原 宏 二
委 員	前 田 敦 司
委 員	義 本 みどり

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課長	平尾 喜彦
都市整備課長	久田 涉	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
		出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
		但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

8名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局次長	坂本英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2022. 12. 23

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関すること
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関すること

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関すること
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関すること

3 鉄道・路線バス等地域公共交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関すること
- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関すること

午前9時25分開会

○委員長（竹中 理） 皆さん、おはようございます。定刻より5分早くお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは始めたいと思いますけども、各委員の皆様、それぞれお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は特別委員会ですけど、常任委員会のほうが終わって、まだ途中のところもありますけれども。

全国的に今、非常に雪が猛威を振るってるところ、豊岡は今日は晴天、今は特に晴天ですけど、竹野とか城崎のほうはすごくまた景色が違うというふうにもお聞きしてますし、お聞きしたら、空港も今、欠航をしてる、昨日からずっと欠航してるっていう状況で、ニュースのほうでも非常に大規模な交通障害の発生するおそれがあるということで、非常に気になるところではあるんですけども、豊岡におきましても、これから除雪のシーズンとか、非常に大雪が予想されます。今シーズン、本当に事故なくできたらなというふうに思っております。

それでは、座らせていただきたいと思います。始めたいと思います。

それでは、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項に入ります前に、連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名前をお願いいたします。

フォルダーの中の交通網問題対策等調査特別委員会の今日の12月23、一番左上のフォルダーの中に配信を、今、副委員長のほうが送っていただいたと思いますけど、資料をご覧ください。

前回の11月の18日以降、この間特別委員会ありましたけども、それ以降の何か変わった点とか変更点、また追加であった分とかを言っていたらというふうに思っておりますので、よろしく願いします。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をよろしく願いいたします。

どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） それでは、2ページをお開きいただきたいと思います。

○委員長（竹中 理） ちょっと待って。はいはい、こっこのほうですね。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは2点事務概要を報告させていただきます。

○委員長（竹中 理） どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） まず、北近畿豊岡自動車道の事業促進です。

現況と課題、基本方針については変わりありません。

概要及び進捗状況ですが、前回11月に報告させていただきました。それから約1か月ですので、大きくは工事とか調査等は進展してはおりませんが、去る12月2日の日に国のほうの第2次補正予算が通りまして、補正予算のほうがついております。

まず、豊岡道路ですが、こちらにつきましては、前から言ってますように、2024年の秋の開通予定ということで、現在、鋭意工事が進められておまして、2022年度につきましては、当初予算21億円ということでしたが、先日の第2次補正で3億円の追加予算がついております。

それから、その下の豊岡道路Ⅱ期です。こちらは2020年度から事業化ということで、現在調査とか予備設計、用地測量等を進められております。2020年度につきましては、当初予算が2億5,000万円ということでしたが、先日の補正で1億円の追加予算が措置をされてるというような状況です。

その他につきましては、前回と変わっておりませんので資料のほうをご清覧いただきたいと思えます。

続きまして、4ページをお開きください。山陰近畿自動車道の事業促進です。

概要及び進捗状況、こちら前回は1か月程度ですので大きくは進展してはおりませんが、北近畿豊

岡自動車道と同様、国の2次補正が幾らかついております。

まず、概要及び進捗状況の1番目の浜坂道路Ⅱ期、居組インターチェンジから新温泉浜坂インターチェンジまでの間ですが、こちらにつきましては、現在トンネル工事であったり橋梁上下部の工事が進められておりました、2022年度当初予算が35億4,400万円、それに今回の補正で15億円の追加補正がありました。

それから、その下の竹野道路につきましては、今年度については調査であったり道路の設計等をしていただいておりますが、こちらも当初予算が8,900万円でしたが、先日の補正で1億700万円が予算措置をされて、鋭意事業を進めていただいております。

城崎道路以下につきましては、特に大きな変化はありません。

それから、5ページをちょっとお開きいただきたいんですが、その他ということで山陰近畿自動車道整備推進決起大会、これは東京のほうで毎年開催されておりますが、こちらへも参加しております。今年度につきましては、現時点で2023年の1月25日に東京のほうで開催予定ということで聞いておりますので、そちらのほうにも参加をさせていただいて要望活動等をしていきたいというふうに思っております。

それから、6ページにつきましては2022年度の要望内容ということで、下のほうに北近畿自動車道と山陰近畿自動車道の早期整備の要望項目を書かせていただいております。23年の1月25日には、特に山陰近畿自動車道の整備推進決起大会ですので、豊岡市に関連いたします(1)の豊岡北ジャンクション・インターチェンジから城崎温泉インターチェンジ間の直轄権限代行による早期事業化であったり、3つ目の竹野道路の早期用地買収に必要な予算確保等に向けた内容について、しっかり要望をしていきたいと思っております。

建設課からは以上です。

○委員長(竹中 理) それでは、久田課長。

○都市整備課長(久田 渉) それでは、資料の7ページのほうをご覧ください。都市整備課は3つあります。

まず1つ目で、空港の利用促進と利便性の向上についてです。前回の11月の委員会から進展のあったものを説明させていただきます。

まず、大項目1つ目の運賃助成や小学生社会見学支援による利用促進につきましては5つ上げておりました、空港運賃の助成事業、それから小学生の飛行機体験搭乗事業、それから新成人の記念事業と小学校社会見学事業など利用促進を実施しまして、前回は10月末の数字だったんですけど、今回はこの11月末現在の利用者人数等を記載しております。

それから、今回追加で(6)の事業としまして、中学、高校、大学、特別支援学校の学生の方への無料航空券の贈呈事業。既に対象者の方には無料の引換券を配付しているところです。

これにつきましては、但馬空港の利用促進を図るために、毎年市内の小学生や20歳を迎えられた方に無料引換券を配付しておりますが、今回さらなる利用促進、それから、年末から来年の春にかけて受験や入学、新生活に向けての移動が必要となる学生の方やその世帯を応援するために、関係する対象者約4,900人の方へ但馬-伊丹路線の無料の航空券、無料引換券を配付するものです。

具体的な内容ですけれども、配付物は1人2回利用できる、要するに往復で利用できる無料引換券。配付方法や時期につきましては、現在12月の月上旬をめどに、もう既に学校を通じて本人配付をしておるところです。利用期間につきましては、今年のこの12月15日から来年の4月の30日までの搭乗を対象としています。利用方法としましては、搭乗前でも搭乗後でも、どちらでも手続できることとなっております。

空港は以上です。

それから、次に、8ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進についてです。こちらにつきましても、今回進展のあったもののみ説明をさせて

いただきます。

まず、大きい項目、大項目2の地域の実情に応じた新たな交通モードの検討のイの日高地域での福祉モビリティの実証実験についてです。こちらについては、特に事業内容等の変更はございませんが、福祉事業者の参画数が当初見込んでいた計画数に届かないとなったことから、関連する車載登載のタブレットの数を減らして、82万5,000円分を減額補正する方向で12月議会の補正予算として今、提出をさせていただいているところです。

それから、次に、大きい項目の4の運行事業者、地域と協働したモビリティ・マネジメント及び利用者確保に向けたイベントの実施については、4つ上げておりますけれども、その中のイ、市の職員の管内移動に係る公共交通利用回数とウのノーマイカーの販売枚数は記載のとおりです。

今回新しく新規事業のエとして、路線バスの乗降方法の動画の制作、それからその活用について、新たに取り組むこととしたものです。これにつきましては、交通弱者である高齢者の方など、路線バスの乗り方が分からない方や不安を感じられてる方に路線バスの分かりやすい乗降方法、紹介や心理的不安を払拭することで、バス利用が一つの地域課題の解決になればというふうな視点から、うちの豊岡市と社会福祉協議会、それから全但バス株式会社との協働で、1つは、車椅子とシルバーカーの対象にした分と、それから一般の方の乗客の2種類の動画を制作したところです。

活用方法についてですが、これらの動画は豊岡市社会福祉協議会と全但バス株式会社の公式のYouTubeのチャンネルの掲載並びに全但バスさんと本市、豊岡市としてはホームページでも公開をしておるところです。

加えまして、既にですけれども、豊岡病院の各内科診療所の待合所、それからアイティの1階と2階と7階のフロア、それからワクチンの立野会場のところと、それから本市の本庁の1階のフロア、動画を流して今、既に周知に努めているところです。

それから、今日、お手元の資料の中に市営バスイ

ナカーの次期運行計画に係る意見交換会の開催文書を配付させてもらっておりますが、これにつきましては毎年路線ごとに開催をしている会議で、主な内容としましては、運行条件に係る事業報告とかダイヤ改正等があった場合の確認等を行っているもので、本特別委員会の皆様に情報共有をさせていただきますということで配らせていただきました。

バスのほうは以上です。

それから、最後に、10ページをご覧ください。鉄道交通の利用促進についてです。こちらについても進捗のあったものを説明させていただきます。

まず、一番最初の大項目の1つ目の利便性向上のための機運醸成と要望活動につきましては、(5)のJR西日本の経営改善に伴う路線見直し方針のアのJRローカル線維持存続及び利便性向上に係る要望実施としましては、11月以降は11月の21日に兵庫県知事と兵庫県JRローカル線維持・利用促進検討協議会で国土交通省、藤井事務次官のところへこの維持・存続に係る要望活動を行ったところです。

それから、次のイのJRローカル線維持・利用促進検討協議会につきましては、兵庫県がこのJRの報道以後、県のほうが緊急的に本協議会を立ち上げて、まさしく今日、本日12月23日には第2回目の検討協議会が神戸市で開催される予定でして、市長も山陰本線ワーキングチームの代表として出席することとなっております。

それから、ウですけれども、JRの山陰本線維持・利用促進ワーキングチーム、これにつきましては、前段の協議会を対象路線ごとに細分化して、山陰本線に特化したワーキングチームで、記載のとおり、この12月7日には最終となります3回目の協議会を行ったところです。

その協議会の中でですけれども、今後の方向性につきましては、山陰本線の特徴を踏まえ、観光利用に軸足を置いて、ひいては日常利用の利便性も高めていくというようなことを基本とする考え方の整理をされたところです。具体的な利用促進策の検討していくための取組方針についても短期、中期、長期の

3つの時間軸で整理をされ、事業者、それから行政、住民の役割についても明確化されたところです。

それから、次に、大きい項目の2番目です、京都丹後鉄道に対する支援の中の(2)施設整備、運営支援等への補助のアからウに加えて、今回エとしまして、京都丹後鉄道事業支援補助金、追加支援として記載をしております。これにつきましては、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛要請によって観光需要が激減しました今年の蔓延防止期間、ちょっと前の話なんですけども、1月の27から3月の21日までの期間の定期外、要するに、定期外運賃収入の減った減収分を沿線自治体で支援する豊岡市の負担額ということで、これにつきましても今回の12月議会に増額補正として146万2,000円を予算要求しているところです。

都市整備から以上です。

○委員長(竹中 理) 以上ですね。

それでは、説明は終わりました。質疑、意見等はありませんでしょうか。

どうぞ、前田委員。

○委員(前田 敦司) ありがとうございます。説明ありがとうございました。ちょっと何点かお伺いしたいなと思うところがありまして質問させていただきます。主にバスです。

先日、議会中だったんですけどノーマイカーデーというのがあって、私も利用させていただきました。お恥ずかしながら初めての利用だったんですけども、その中でちょっと感じたところがありまして、まず、1点目として、ノーマイカーデーを利用する際にカードをその中で購入させていただくような形だったんですけど、非常にこう、何だろう、しっかりした作りになっていて、あれの、あんなに大層なものが要るのかなと思ってしまったのが率直なところです。その制作費が高そうだったなと思うんですけど、それはどれぐらいかかっているのかとか、本当にそれが必要なのかっていうところもお伺いしたいなと思いました。

プラス、利用の動画を作られていると、利用の仕方、動画を作られているといふところなんですけど、

電車なんかで行くと、ICカードでピッと行けたりしますよね。都市部のバスなんかで行ったら、多分利用できるバスもあるのかなと思っているんですけど、その利用料金の支払いでICカード、ICOCAとかSuicaとか、そういったものを導入することは検討されているのかどうかをお聞かせいただきたいのが2点目です。

最後、3点目で、バス停が、いろんなところにバス停があると思うんですけど、基本的に地域の管理とか地域、その地区の負担で造られてるみたいなことを伺ったんですけども、それが間違いがないかどうかっていうところと、バス停を造るに当たって、豊岡市として、例えば屋根を造るための補助をしているとか、夜になったら暗くなるから電灯をつけるための補助をしているとか、何かそういったのがあるかどうかをお聞かせいただけたらと思います。

3点よろしくお願いします。

○委員長(竹中 理) 答弁願います。

久田課長。

○都市整備課長(久田 渉) ノーマイカーデーのカードは……。

○委員(前田 敦司) 実物を。(発言する者あり)でも、皆さんに、よければ。「これなんですけども」と呼ぶ者あり)僕も今日、持ってきたらよかったですけど、すみません。

何となくこの辺、両開きで、何か削って。

○都市整備課長(久田 渉) まずこのデザインとか制作は、全但さんのほうでやってもらっています。なので、金額は、今、詳しく確認できないんで、後で報告させてもらってもよろしいですか。

○委員(前田 敦司) はい。

○都市整備課長(久田 渉) それから、ICカードの関係は、それこそ今、JRの関係で、1つの案としましては、JRとバスが両方とも同じ券種というのか、ひいては今のICカードみたいなことをして、両方使えるようなことが、徳島県のほうで実際に実験してまして、この間12月の中旬にうちの担当のほうも一緒に視察に行っていました。それは、要するに、バスや電車に乗って、駅に着きまして、そ

れから最終のところまでピツとかざすと、両方とも支払いが兼ねることができまので、前向きに、検討していきたいというふうには思っております。

それから、バス停の関係ですけども、一応上限30万円で補助の要綱をつくってまして、地元のほうからの要望に応じて、全てができるもんかどうかというのがありますけども、そういった制度がありません。以上です。

○委員長（竹中 理） それじゃあ、そしたら、さっきの制作費のやつは、資料もしあれだったら、全員に配付をお願いします。

○都市整備課長（久田 渉） はい、了解しました。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） ありがとうございます。質問に関しては理解できました。じゃあ、ICカード、前向きにということで、ぜひやってください。よろしくをお願いします。

ちなみになんですけども、何でこんなこと言ってるのかっていうのが、豊岡市も、一般質問でも触れましたけど、気候変動、ゼロカーボンとかっていうことを言ってる中で、公共交通機関を使っていくのが結構な数値として脱炭素、炭素を減らすっていう、二酸化炭素の排出量を減らすっていうことで効果があるっていうふうに出てるので、そういう意味でも私自身ももっと使っていきたいなと思いますし、ただ、使い勝手がよくないと、やっぱり使えないみたいなのもあるのかなと思って、ぜひ使い勝手よくしていただきたいなと思います。すみません、ありがとうございます。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（前田 敦司） はい。

○委員長（竹中 理） じゃあ、ほかにありませんですか。

清水委員。

○委員（清水 寛） 私のほうから、ちょっとJRの関係でお聞きします。

先日ちょっとJR特急を使って大阪まで行く用事があったんで行ったんですけども、豊岡駅の場合はみどりの券売機の券があったんですが、私は日高

なんで、駅員さんがおられるんです。そこでも結構、買われる方がかなり並んどられてっていうこともあったんです。実際その目当てとする特急は来なかったんですけども、雪のせいで、それは、実は倒竹の関係で、鳥取から来る「はまかぜ」だったんですけども。その点に対しては、やはり沿線自治体として、豊岡市はそういうところがないよっていうことではなくて、沿線自治体として、やはりそういう倒竹であったり、線路際のとこの管理をしていくというふうな仕組みが必要なのかなと思いますので、その辺での取組というのが現状あるのかどうかっていうこと。

あと、実は、特急を、今は全席指定なので、必ずそういう意味では買わなければ乗れないという状況ではあるんですけども、大阪駅で同じようにみどりの券売機で買うことになるんですけども、30分ほど前に並んだんですけども、危うく乗り損なうぐらいのすさまじい行列ではあったんです。

実は、それはインターネットで事前に買うことが可能だというような予約のシステムになってまして、そういう意味では、特急を使う場合にインターネットで事前に買うということをもう少しPRする必要が、実はあるのかなというふうに思うんですけども、その辺で、今後何かそういったことに関してどのように考えるのかっていう、その2点についてお聞かせください。

○委員長（竹中 理） 答弁を。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 倒木、倒竹の関係につきましては、今のところ、そういったことがJRさんから話があるかということにつきましては、ないです。うちのほうも、現在のところはそれについて、具体的にどういったことというものは考えておりません。

2つ目のネット事前予約、事前購入の関係ですけども、豊岡市としては、具体にはしてないんですけども、JRさんのほうは今、WESTERのご予約、チケットレスサービスの「e5489（イーゴヨヤク）」などがあります。今後そういったところの周

知を図っていくということについては、また豊岡駅さんのほうにも話をしたいと思います。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） やはり、JRの利用促進という点が、やはり今後しっかりとしていかなければならない、そういう意味で、市のほうとして取組をしますよという行動が、多分見せることが必要なのだと思います。先ほどのチケットレスでの購入をすると、実は若干安く買えるっていうようなこともありますし、メリットがありますから、その点しっかり伝えていただきたいなと思います。

あと倒竹、倒木の件、もう一つは、やはり帰路ではあったんですけども、特急が止まって警笛をしきりに鳴らされるんで、恐らく鹿がいたんだろうなというふうに思います。その辺での対応というのは、当然JRさんの、いわゆる線路内というか、そこに入ることっていうのは多分相当厳しい縛りがあるんだとは思いますが、周辺で、やはりJRに対して何らかの対応をしますよという、そういう態度を見せることも、またJRに対しての沿線自治体の姿勢になると思いますから、その辺も、やはり言われるからというよりも、先に何らか考えるような行動っていうのもぜひ示していただきたいなと思います。これは意見としてです。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

それじゃあ、そのほかありませんでしょうか。どっちが早かった。

じゃあ、須山委員。

○委員（須山 泰一） さっきノーマイカーデーのことが出たんで、それをまず。一般質問でもちょっと言いましたが、全但では車両の中でもチケット買えるということですけど、イナカーは買えないということを行いました。

その路線の確認ですけど、うちの三方と八代と、全但がイナカーを走らせてるところは買えるっていうことだと思うんですけど、そしたら、あとは気比ですかね、その3つが買えないということで。（「気比も全但です」と呼ぶ者あり）

全但ですか。なら、やっぱり三方と八代だけで

か。赤石、気比、そして竹野の海岸線と但東町の何でしたっけ、その4つは全但ということですか。ああ、そうですか。

なら、何とか日高では、一般質問でも言いましたが、買えるところが、全但に乗れば買えるんですけど、八代や三方の場合は全但がなくてイナカーを使うわけですけど、駅でないを買えないということなんです。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すみません、今さっき気比のほうは全但って言いましたが、メルティバスです。全但バスは赤石と竹野海岸線と河野辺線です。気比のほうはちょっと間違っていました、すみません。

先ほどの質問ですけど、今、委員言われたように、確かに全但さんが運行しとる路線についてはイナカーの車内でも購入できますけども、それ以外のところではできません。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そしたら竹野南も、なら恐らく買えないのかなというふうに思いました。4路線ですよ。竹野南、実証実験されてる竹野と気比と、気比三原線と日高の八代と三方線、この6つの路線のうち、竹野を合わせて7つか、のうち4つはそういう状況だと思うんで、検討していただきたいということと、それから、イナカーの説明会のことが出てますけど、そうですね、これもちょっと一般質問で一言だけ言いました。区長さんが集まって、あんまり利用者の直接の意見が聞けないんじゃないかと言いましたが、日高は去年まで三方も八代もそれぞれ地域のコミュニティセンターで説明会をしてもらったと思うんですよ、僕も参加しました。今回は日高の農村改善センターに両方集めてやるということで、もうこれはまさしく利用者は絶対参加できない、より一層参加できないシステムだと思うんですが、そこんこは何でこういうふうに変えられたのかをお聞きします。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 時間的なこともあり

まして、夜に設定させてもらったということは申し訳ないと思っています。

しかしながら、今回は、今までは毎年1月に意見交換会してました。ところが、今回については、実際に乗られている方の声も聞きたいということで、12月の下旬からイナカーのドライバーの人にアンケートを渡してます。特段、設問を1、2、3というふうには設けてるものではないんですけども、ふだん使いをされとる方が日常でどういったことを、感想とか要望とかあったらざっくばらんに記述してくださいということで、その用紙を、A5判のちっちゃいもんなんですけど、ドライバーの人に渡してあげて、乗られる方に協力してもらえる方がいらしたら意見を書いていただいて、それを集約したものを1月の意見交換会のときに皆様と情報共有したいというようなことで考えております。以上です。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 車内にたしかアンケートはありました。あれは前からずっとあるもんかなと思ってたんですけど、そうではなくて、最近そういう意味でできたものでしょうか。それとも、車内にアンケートって、取って書くようなシステムは見ました。それとはまた別の運転手さんが渡すアンケートがあるのか、どうでしょうか。

○委員長（竹中 理） どうぞ。

○都市整備課長（久田 渉） 委員、もしそれがこの11月終わりから12月にかけてのことでしたら、今回ちゃんとセットさせてもらったアンケートになります。

○委員（須山 泰一） 取りあえず分かりました。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（須山 泰一） はい。

○委員長（竹中 理） じゃあほかに。

田原委員。

○委員（田原 宏二） まず、ノーマイカーデーのことについてお尋ねいたします。第4金曜日は今年度から追加になったかと思うんですけども、昨年と比べての利用状況を教えてください。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 第4金曜日追加をさせていただいたのは、5月の中旬からです。大体去年のデータでしたら年間約700枚、なんで、月に大体60件程度だったんですけども、今年になってから最初の6月、7月ぐらいは、例えば、6月でしたら第2水曜日が49件、第4金曜日が95件っていうことになっておりましたけども、近々の値で言いますと、だんだんと周知が効いてきたんか増えてきまして、10月と11月は、10月でしたら77件と93件、足したら大体170件、11月でしたら、また第2水曜日が95件、第4金曜日が83件ということで180件近くなってますんで、去年に比べると、3倍程度増えているかと思います。以上です。

○委員長（竹中 理） 田原委員。

○委員（田原 宏二） 全但バスを、私もそうなんですけど、なかなか乗らない、車ばかりなので、こういう機会があると、まず乗って、乗りやすいなどということは感じてもらえると思いますんで、この第4金曜日を増やしていただいたのは非常によかったのかなと思います。今以上にまたちょっと告知等をいただいて、利用者が増えればなどというふうに思っております。

もう1件いいでしょうか。

○委員長（竹中 理） どうぞ。

○委員（田原 宏二） 福祉モビリティの件でございます。参加業者が予定より少ないということですけども、この点は何が要因でございましょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 当初、事業者の数としましては6事業者を予定しておりました。現在のところ、そのうち1つの事業者さんが参画をいただいております。

その6つの事業者さんの中に社協さんが3事業者さんだったんですけども、当初と違いまして、いざとなると社協さんのほうは、なかなか実際、朝夕の送りに加えて、日中もすることがたくさんあるということもあって、なかなか、その組織の上の方は、

割と乗り気なんですけど、実際、実としてやられてる職員さんのほうに話が下りると、実際やってる業務にさらにプラスになるということで、本当は一番期待をしておったところなんですけども、そういったところがありまして、なかなか期待どおり増えてないのが実情です。以上です。

○委員長（竹中 理） 田原委員。

○委員（田原 宏二） 社協さんも、実際本当に朝から晩まで忙しくて大変だと思うんですけども、この取組は非常にいいなと思っております。というのが、やはり高齢になられると、なかなかバス停までが出にくいという方が増えてくるかと思しますので、自宅の近くで乗り降りできるというのが非常にいいのかなと思います。いろんな問題があるかと思いますが、ちょっとそこを調整いただいて、なるべく事業者が増えるようにやっていただきたいなと思います。以上です。

○委員長（竹中 理） ありがとうございます。じゃあ、ほかに。

義本委員、どうぞ。

○委員（義本みどり） 質問ではなくて追加の意見なんですけれども、先ほど清水委員が言っとなったJRの切符の買い方って結構知らない方が多くて、私世代、50代、40代後半から50代前半の女性の方から、たまたま豊岡駅が機械になって、チケットどこで買ったらええんだらうって言うんです。いや、ネットで買ったら安いし、チケットレス、ペーパーレスのチケット、電子チケットだったらあそこに並ばなくてもいいし、そのまま乗れるし、発券しなければ変更もできるからすごい便利なんだよ言うて、ええ、そんなんようせんわみたいなこと、知らない方って結構たくさんいるので、何かの機会にメリットを教えてさしあげるような機会はとて必要なのかなと思いました。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。いいですか。じゃあ小森委員。

○委員（小森 弘詞） 空港の利用促進の件で教えてください。資料の、これ何ページでしたっけ、6ページかな、7ページに上げていただけてますが、概

要及び進捗状況1番(6)の新たに中学、高校、大学への航空券の進呈ということをお願いしていただけてますが、これは、豊岡市内に学校自体があるところの生徒分を配付してるってところですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 学校は豊岡市内にはなくて、豊岡市内に住んどられる学生が、例えば但馬農高とか、豊岡市外の学校でも市内におられる学生さんが通われとる学校という意味でございます。

○委員長（竹中 理） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 大学っていうのは、豊岡市内在住の大学生に券を上げてるってことですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） はい、そのとおりでございます。

○委員長（竹中 理） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） それどうやって把握されるんですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 学校のほうに問合せをさせていただきまして確認しております。

○委員長（竹中 理） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 例えば、住民票が豊岡にあるけども、大阪とか東京の大学におられるお子さんには渡らないってことですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） それはまた別です。

○委員長（竹中 理） 通常の割引の。

○都市整備課長（久田 渉） はい。今は、豊岡市内に住んどられる子が行く学校です。高校とか大学。（「それは把握できるの。高校は分かるけど、大学はどうやって把握しはるんかなと思って」「市内の大学」と呼ぶ者あり）

○委員長（竹中 理） もう一遍、じゃあ久田課長。

（「専門職大学と技大と近大と」と呼ぶ者あり）

もう一回言ってください。

どうぞ、久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、部長が言いました、市内の中学、高校、専門職大学とか技大とか近

大とかになります。以上です。

○委員長（竹中 理） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 豊岡市内にある大学、短大、専門学校の子生のうち、豊岡市の住民票がある方だけにチケットを配ってるってことですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長、どうぞ。

○都市整備課長（久田 渉） 申し訳ございません。全員です。

○委員（小森 弘詞） 学校に渡してるってことですか。ああ、なるほど。

○委員長（竹中 理） いいですか。小森委員。

○委員（小森 弘詞） ありがとうございます。

あと、この（1）番以外がほとんど若い方向け、学生とか向けの助成事業かと思うんですけども、利用促進の観点で、ビジネスユーズをどこまで増やすのかっていうのが重要かと思うんですが、そういったビジネスユーズ向けの助成事業っていうのは、（1）以外に新たに検討されるとかはないですか。一時期、協議会のほうから助成券かな、3,000円ぐらいの金券みたいなものがばらまかれたこともあったと思うんですけども、そういった、ビジネスユーズの利用喚起っていうのは、今のところ予定がないんでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今原課としては、考えておりませんが、推進協議会には確認したいと思います。

○委員長（竹中 理） 小森委員。

○委員（小森 弘詞） 子供向けがほとんどっていう、その理由というか、コンセプトは何なんですかね。子供を乗せたら、何を狙ってこの助成事業なんですか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 子供さんが行くことによって、要するに子育て世代、親御さんのほうも一緒に便乗してもらえないだろうかというように、そこをメインで考えております。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

小森委員。

○委員（小森 弘詞） ありがとうございます。

これ1点、お願いというか、何とかしてほしいとか要望なんですけども、仕事で乗ろうとしたときに、その日だけ満席っていうことがちらちらあるんですね。それで、行きは仕方なく乗りにくい電車に乗って行って、帰りは取れたから乗って見たら、私以外全員小学生ってことがあったんですね。3人おられました、民間人って、一般人の方が、3人とも知り合いだったんで、愚痴と文句ですわ。やっぱり行きはお互い乗れなくて、乗って見たら養父の小学校が2校、2つの小学校が座席を占有してると。黄色い帽子かぶった子供たちに囲まれて大阪から帰ってきたんですけど。

社会見学で乗るのはいいんですけど、調整をさせていただけないかなっていうのは強く思うんですよ。ビジネスユーズしたいのに、子供たちが満席にしてビジネスユーズの邪魔をしてるっていうの、これは私以外、旅行者の方からも聞いていることなんですけど、その辺の調整が図れないのかなっていうところ強く思うんですけど、難しいですかね。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今即答はできませんけども、いわゆる利用率を70%の設定してるという中で、たとえ僅かな人数でも、あったときに入れるというのは実情だと思いますんで、その辺、促進協のほうにも確認をさせてもらいたいと思います、でよろしいでしょうか。

○委員（小森 弘詞） またよろしくお願ひします。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

じゃあ岡本委員。

○委員（岡本 昭治） すみません、1点だけ。但馬空港の滑走路の拡張の件なんですけども、但馬空港の在り方懇談会が一応何か終了されて、今、県のほうで検討されてるんじゃないかなと思いますけども、検討状況がどうなってるのかと1つと、いつまでにそれが決められるのかというの、その2点だけちょっとお聞きします。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今言われた、まず、いつまでに検討しなければならなかったということにつきましては、令和8年度末までに滑走路端、両端に50メートルずつ危険区域と延ばさなあかんということなんですけども、そこまでに実施設計で、工事着手ではなくて、設計でもいいから着手すれば……（「かかっているよということ」と呼ぶ者あり）ということであれば。

それから、在り方懇話会の件ですけども、これは、なくなったのではなくて、コロナの関係で中間報告ということで、一旦取りまとめをした段階で終わっています。ただ、休止中ということで、その中で短期、中期、長期という計画を盛り込まれてまして、短期としましては、取りあえず利用促進をしようということをまず短期的に、中期のところでも今、委員言われました滑走路端、国際基準への対応するというのが中期です。それから、長期につきましては、実際の滑走路の延長の話が盛り込まれておりまして、それを締めくくった途中で中間報告ということで、県も、5月の時点でホームページにも出ていますし。以上です。

○委員（岡本 昭治） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（岡本 昭治） はい。

○委員長（竹中 理） それじゃあ、もうあと、なければ……。あ、ありますか。

じゃあ前田委員。

○委員（前田 敦司） すみません、先ほど答弁いただいた中で、バス停の管理に伴う補助があるということで、ちょっと今、頑張ってみようと思って探してたんですけど見つからなくて、またどういう要件なのか、どこで周知されているのかをお聞かせいただけたらと思うんですけど。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） そしたら、補助要綱の資料を先ほどの関係と同じように提出をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） ありがとうございます。多分、補助の制度があっても知らない方がおられたら使えないと思うので、まず見せていただいて、周知の方法なども今後検討していただけたらと思います。

もう1点、すみません、ノーマイカーデーのチケット、ちょっと関連のことだけにしようと思ってるんですけど、そのチケットって、あれ事前に購入することもできますよね。その期間、第2と第4で使えるみたいな形で。なので、事前に使って、例えば10冊ぐらい持つといて、そのときに使うってことはできますか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 年度も複数年いけるようになってます。なので、まとめて、例えば5,000円でこれ10枚買われるというのも可能です。以上です。

○委員（前田 敦司） 分かりました。じゃあ、そういう利用の仕方でもどこでも買えるということですね。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） じゃあ、もう皆さん。須山委員、どうぞ。

○委員（須山 泰一） すみません、これも前にも言いましたけど、竹野の南の今の実証実験されているバス、前回のこの委員会で見せてもらったと思うんですけど、バス停が、乗車場所が非常に多い、1つの村に2か所、3か所とある。あれを何とかほかのイナカーなんかにも適用させてもらえないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 現在のところ、増やすというようなことは考えておりません。よくご存じのように、1便当たり1人以上ってところが画期的に増えるとか、そういったことがあれば、バス停を増やすということもなんですけども、現状で言いますと、なかなか難しいかなというふうに考えております。以上です。

○委員長（竹中 理） はい。

○委員（須山 泰一） 竹野の、僕、数えたら、三原

から森本、床瀬で五十何か所があったんですよ、52だったと思うんですけど、乗車場所が。恐らくそんなバス停というようなバス停にはなっていないんじゃないかと思うんですけど。要は、そこを通過してバスが運行すると、お客さんがおったら乗せていくという、そういう通行ルート沿いに目立つ場所に、誰々さんの家の前、誰々さんの家の前っていう乗車場所ですよ、この前説明されたように。なんで、そこを運行してもらって途中の幾つかのポイントをそうやって乗車場所としてしてもらったらええわけで、難しいことではないかなというふうに思うんです。竹野の実績がどういうふうに今後出ていくかにもよるとは思いますけども、やっぱり見てたら、介護までは必要としない、しないけど、やはり足がちょっと悪い、ゆっくりしか歩けない方が多いなという、乗客はね、そういうお年寄りが多いという印象なんで、やはり1村に。どっちみち村をバスが通過する際には通るわけですから、それを、過疎の地域ですから、そこで待たれてたらそこに止まるっていうだけで、フリー降車、降りるときはそれができてるじゃないですか。それを行きも、1便1人とか2人とかなら余計に簡単にできることではないかなと思いますんで。

最近僕も乗った際は、でも、うちの路線、金谷から江原ですけど、行きが4人で帰りが3人おられて、多いときだったのかなと思うけど、やっぱり使われてますんで、そうやって乗車場所が近いところで乗れるんだったらもっと増えるんじゃないかと思えますんで、今後もぜひ検討していただきたいと、お願いします。

○委員長（竹中 理） じゃあ、要望事項ですか。

○委員（須山 泰一） 要望ですね、はい。

○委員長（竹中 理） はい。

どうぞ。

○委員（岡本 昭治） いいですか、大丈夫ですかね。

○委員長（竹中 理） いいですよ。どうぞ、岡本委員。

○委員（岡本 昭治） ノーマイカーデーで、多分市役所の方とか職員の方ですね、特に使われているん

じゃないかなと思いますけども、市役所の中に多分、バスのどの路線によって、なかなか8時何分までには行けないというところが、何かこれは時間差出勤とか、そういう制度があるんじゃないか。このノーマイカーデーじゃないけど、バスを使う場合は、毎日かどうかはちょっと分からないですけども、時間差出勤してもいいよっていうような、そういう制度は何かなかったですか。

○委員長（竹中 理） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今、岡本委員言われましたように、例えば公共交通使って来たら、例えば8時40分とか8時45分にしか市役所に入れないというような場合は、その分遅く、5時半まで仕事したりとか5時45分までするという、そういうような、何か制度自体はありますので。一時、京都丹後鉄道を使って来ておられる職員が、ちょうど8時半までには着かないっていうことで、そういったことを利用されて、時間を延長して勤務ということはありません。

○委員長（竹中 理） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 市の職員の方は結構そういうことが取りやすいかなと思うんですけど、これノーマイカーデーとか公共バスを使うとなると、やっぱり職員の方もそうだし年齢の高い方もそうなんですけど、市内で仕事をされてる方、要はそういう方々もやっぱりある程度巻き込んでいかないと、飛躍的にそれがぐっと伸びていくとかいうことはないんじゃないかなとちょっと私、思ってます。そういう制度、企業さんの協力を得られながら時間差出勤を認めてくださいみたいな制度をしてやっていったほうがいい、するにしても、伸びるかどうかはちょっと分からないですけども、大変大事なかなというふうに思ってますけども、その点は。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） こちらのほうとしまして、まだ実施はしていませんけども、そういったことを必要だと考えておりますし、例えば銀行さんとか、農協さんとか、豊岡病院とかへ、声をかけさせてもらって、そういった方向で行かせていただ

きたいなどは思っております。以上です。

○委員長(竹中 理) 岡本委員。

○委員(岡本 昭治) ちょっと先日、朝来市のこの公共交通のワークショップがあったので、ちょっと特別に行かせていただいてお話をしてる中でも、やっぱり皆さんそういうような、広げていくためには、勤めてる方、勤務されてる方をどう取り込んでいくかというのが大事ちゃうかなということをつくづく感じましたので、ちょっとまた検討をお願いしたいと思います。よろしく願います。

○委員長(竹中 理) よろしいですか。

○委員(岡本 昭治) はい。

○委員長(竹中 理) では、皆さん発言されたので。

じゃあ、私で。ちょっと質問じゃないんですけど、1件ちょっと要望っていうか。

さっき小森委員言われた、学校の無料航空券の贈呈の事業で中学校、高校、大学、特別支援学校ってあるんですけども、豊岡市には専修学校と専門学校もあるんです。私んところにも、新聞にもそうやって同じような、新聞の書き方もあれなんですけど、その中に専修学校と専門学校というのは入ってなくて、私のほうに問合せがいっぱい来て、そこはないんかという。澤田部長に聞いたら、そこもありますよということだったので、表記の仕方なんですけど、なかなかちょっと市内で認識してもらってない、だんだんとは、教育委員会なんかの資料ではよくしっかり入れてもらってるんですけど、それ以外の資料ではなかなか入ってなくて。厳密に言うと高校の部類じゃないので、教育法の第一条項じゃないので、きちっとできたら入れていただけたらなというふうに。これは要望ですので、質問じゃないんですけど、その辺ぜひお願いしたいと思いますけども、よろしく願います。それだけです。

それでは、以上で、ないようですので、委員会の所管事項の現状については終わりたいと思います。

この際、当局から、そのほか何かございませんでしょうか。よろしいですかね。

それでは、ないようですので、当局の職員の方は、

久田課長以外は退室していただいて結構です。どうもお疲れさまでした。

ちょうど1時間ですので、ちょっと5分間休憩しましょうか。いいですか、久田さん。(「いいです、いいです。はい」と呼ぶ者あり)

じゃあ、ちょっと休憩します。

午前10時24分休憩

午前10時36分再開

○委員長(竹中 理) 委員会を再開したいと思います。

先ほど久田課長のほうから管内視察についての案を言っていただきましたので、先に(3)その他の管内視察につきまして、皆さんで協議をしていただいて決めたいと思います。

行くのは来年になるんですけども、春っていうか、雪が解けて、いい頃合いを見計らって行きたいなというふうに思っておりますので、先ほどの説明聞いた中で、委員の中でご意見あれば、何かここ行きたいということがありましたら、どうでしょうか。

前田委員。前田委員言いそうな、どうぞ、前田委員。

○委員(前田 敦司) 今、お話し伺っている中で言ったときに、個人的には、豊岡一竹野の電車っていうのも一つなんですけど、但馬空港を利活用していかなあかんってなったときに、空港を見るだけっておっしゃるんですけど、使い勝手の悪いところとか、ほかの地方空港にはあって、ここにはないものみたいなものをこの委員会の皆さんで見て、但馬空港って何か惜しいよねっていうところの話なんかできたらいいのかなと思ったりはしました。

○委員長(竹中 理) そういうご意見もあります。どうでしょうか、ほかの皆さん。

清水委員。

○委員(清水 寛) 僕は、豊岡一竹野までっていう中で、特に切符販売を観光協会が担ってるっていう話から、今から全部自動になっていくっていうと、日高も八鹿もなりますよみたいな話があった中で、だったら人を置くための何かすべというのが、そこ

に何かヒントがあるんじゃないかなっていうふうにもちょっと思ったんですけども。

要は、JRの人は必ずしもいなくても、切符販売とか、そういうところを地元の人がサポートできる体制が組めれば、そこに人の配置っていうのはできるのかなと思うんで、その点が何かヒントが得られないかなと思うんですけども。そんだけです。

○委員（岡本 昭治） たしか市のほうから観光協会にお金少し出てますよね。

○委員長（竹中 理） 出てますよ。

○委員（岡本 昭治） 管理ね。

○委員長（竹中 理） どうでしょうか、ほかに。もう自由に言っていたら。

小森副委員長。

○委員（小森 弘詞） 空港の施設見学は個人的に行きたいなと思いつつも、時節柄、JRの、特に「はまかぜ」の減便が報じられた後ですし、いよいよ乗らない路線になっちゃいそうなので、問題の匂いとかっていうところもあって、竹野に車で行くっていうのはどうかと。

○委員（義本みどり） 汽車。そうしましょう。

○委員長（竹中 理） 汽車でね。

○委員（義本みどり） 賛成。

○委員長（竹中 理） 皆さんで汽車の旅もいいです。

○委員（義本みどり） はい、賛成です、今のに。

○委員長（竹中 理） いいですか。

先ほど久田課長もお勧めっていう言い方でも言われましたし、先ほど小森副委員長も言われましたような感じで、どうでしょうか、皆さん、皆さんが皆さんもしよければ。空港も、もし、我々のその期間の中で行ける。

坂本次長、あれですか、空港も行くみたいなタイミングはできそうな感じなんですかね、どうでしょう。

○事務局次長（坂本英津子） 委員会の日を使ってこの管内視察をされる場合もあるでしょうし、全く別の日にされる場合もあります。抱き合わせで行くこともできますし。日程別に設けても、また別の機会

にってことでもいいかとは思いますが。

○委員長（竹中 理） そうですね、時間は取れるってということで、いいですよ。

じゃあ、空港のこともちょっと頭に入れつつ、年明けの、雪明けてちょっと頃いいときに、またちょっと委員長、副委員長とあと事務局で素案つくって、またご連絡させてもらう形でよろしいですか。

どうぞ。

○委員（須山 泰一） 管外視察はできれへんの。

○委員長（竹中 理） 管外視察は、もう来年の…

○委員（須山 泰一） ああ、来年あるんですね。

○委員長（竹中 理） 来年の、タイミングとしたら5月とか6月。

○事務局次長（坂本英津子） 特別委員会はまだ少し後に。（「7月」と呼ぶ者あり）

○委員長（竹中 理） あ、7月か、ごめんごめん。ああ、そうか、5月は常任委員会。ああ、常任委員会というか、常任委員会。

○委員（須山 泰一） じゃあ特別委員会でもあるんですか。

○委員長（竹中 理） 特別委員会もあるんです、これ、管外視察はあります。それはちょっとまだ早いで、ちょっと今日は決められません。

○委員（須山 泰一） 分かりました、了解しました。

○委員長（竹中 理） 特別委員会、1泊2日、大体市のバス使って、距離内っていうか、あんまり遠くないところを1泊2日で行きますんで。

○委員（須山 泰一） 分かりました。

○委員長（竹中 理） ということで、それでは、そういう形でいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、次に、（2）委員会の運営方針につきまして、Side Booksの中の本日のフォルダーの中の次第の4ページですね。

これはもう確認だけです。皆さんのご意見聞くというよりも、これ前回は聞きましたし、重点調査事項については、もうこのままでいいということをご了解いただく形でお願ひしたいと思っておりますので。こ

れ特段別に議論ないと、異議ないとこなので。

どうぞどうぞ。どうぞ。

○委員（清水 寛） もしあれだったら、今3番で鉄道・路線バス等なんですけども、鉄道と路線バスを分けたらと思いますけど。

○委員長（竹中 理） 鉄道と路線バス、ああ、この2つ。

○委員（清水 寛） 要は、今、JRがこういう大きなテーマになってきたもんですから、今この鉄道っていうのは、恐らくKTRが頭にあつての鉄道なんですけども、状況が、この多分、昨年度からは随分変わってるっていうこともあるんで。これは提案なんですけど。

○委員長（竹中 理） これ今、坂本次長、これを変更っていうのは、時期的にはいいんですか、大丈夫ですか、あり得る。

○事務局次長（坂本英津子） 昨年も、鉄道っていう文言がなかったのを、3番に鉄道っていう言葉を入れました。途中であっても可能であります。

○委員長（竹中 理） はい。今のその清水委員の意見について、ご意見とかありますか、どうですか。分けたほうがええか、そのままがいいか、どうでしょう。

○委員（岡本 昭治） もう具体的に名前を上げてしまふ、山陰……。

○委員長（竹中 理） 4に路線バスを下に入れるっていうことですよ。どっちでもいいんですけど。

○委員（清水 寛） 先ほどの説明で言っても、分かれて、バス。例えば、空港の利用とバス利用っていう話、それから鉄道交通の利用っていう話でっていうことで3つに分かれてたわけですから、道は道であれでしたけどもって考えたら、当局のほうが、分けて説明しているっていうこともありますし。

○委員長（竹中 理） ああ、ですよ。

3の中で2つに分かれてるんで、これでいいかなとは思うんだけど、でも、問題意識を分けるっていう意味では、分けてもええかなとは、いうふうには思いますけど、皆さんどうですか。皆さんどうでしょう。

○委員（義本みどり） 分けましょう。分けたほうがいいと思います。

○委員長（竹中 理） 分けたほうがいいと思いますか。

○委員（義本みどり） はい。

○委員長（竹中 理） そのままの意見の方ありますか。どうですか。

○委員（岡本 昭治） やっぱり別に。

○委員長（竹中 理） 提案いただいたので、何かちょっと新しい委員で新しいことをちょっと変えたよということでしたいなと。

じゃあそれ、そしたら、清水委員のあれで、形で分けるという形でよろしいでしょうか、皆さん、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） じゃあ、そういうふうにしたいと思います。

またちょっとそれは、事務局とうまく相談してします。

それでは、以上で議題は終わりましたけど、その他、何か委員の方ありましたら。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） 意見がなければ。よろしいですね。

じゃあ、ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午前10時46分閉会
